

No. 733

スースロフ氏来日

—ソ連共産党代表団—

1月30日、ソ連共産党の実力者ミハイル・スースロフ氏が、日本共産党との会談のため来日しました。
部分核停条約、をめぐる対立から断絶状態となっている両党関係の正常化をはかるのが目的といわれますが、政治上の複雑なもつれを、すぐれた理論家であるスースロフ氏が、どのように解くか、注目されています。

山の子どもたち

—埼玉—

埼玉県飯能市から車で30分、正丸峠のふもとにある生徒数83名、教職員7名の素朴なへき地校、北川小学校。

恵まれた自然の環境にありながら生徒の体位は低い。清原校長先生はこの事を重くみて、高いカロリーの給食と給食を通して山村家庭の食生活改善に努力している。

生徒達も何とか自分達の力でおくれをとりもどそうと夏は薬草を集め、冬はたきぎをひろって手助けをしている。山の子供の姿を紹介したもの。

復帰への不安

—小笠原—

23年ぶりに帰ってくる小笠原諸島。

去る1月18日、復帰にそなえ初の政府調査団が、旧島民代表と共に父島母島を訪れました。

歓迎の中にも、現島民たちにとって返還は、期待と不安の入りまじった複雑な表情を見せています。

「日本のハワイ」と本土で期待された島民たちが希望する観光開発。しかし土地、教育、漁業保護など小笠原の再開発は、今後に大きな課題を残しています。